



# CLEAN CENTER CSR REPORT 2024-2025

株式会社 クリーンセンター CSR レポート 2024-2025

## 目次

P1	目次・編集方針・会社概要
P2	トップメッセージ
P3-5	事業内容
P6	沿革
P7-8	CSR方針
P9-10	KPI
P11-12	E・環境の取り組み
P13-14	S・社会の取り組み
P15-16	G・ガバナンスの取り組み
P17	環境データ
P18	マテリアルバランス

## 編集方針

報告対象組織 株式会社クリーンセンター  
報告対象期間 2024年5月～2025年4月(※一部対象期間外を含む)  
発行時期 2026年2月  
参考ガイドライン 環境省「環境報告ガイドライン」(2018年版)  
SDGコンパス  
お問合せ先 株式会社クリーンセンター 担当:柴田  
〒800-0115 福岡県北九州市門司区新門司3-67-9  
フリーダイヤル:0120-023-326 TEL:093-481-4523 FAX:093-481-4529  
メール:marketing@clean-center.co.jp

## 会社概要

商号	株式会社クリーンセンター
代表者	酒田 雅央
設立	1978年
資本金	1,000万円
社員数	22名(2026年2月現在)
所在地	福岡県北九州市門司区新門司3-67-9
加盟・参加団体	北九州商工会議所 公益社団法人 福岡県産業資源循環協会 一般社団法人 廃棄物処理施設技術管理協会 一般社団法人 北九州市防災協会 公益社団法人 門司法人会 九州環境エネルギー産業推進機構 (K-RIP)

北九州環境ビジネス推進会
NPO法人 九州環境カウンセラー協会
ふくおか石膏ボードリサイクル研究会
北九州SDGsクラブ
ふくおか3Rメンバーズ

Happy  
Action

こまめな  
消灯!



業務Gr.統括リーダー  
前田 信行



## CSRで、クリーンセンターの 強靱な基盤をつくる。

株式会社クリーンセンター  
代表取締役 酒田 雅央

# TOP MESSAGE

当社のCSRをまとめた「クリーンセンターCSRレポート2024-2025」をご覧ください。誠にありがとうございます。

当社では、ESG(環境・社会・ガバナンス)の観点からCSRのテーマを整理し、SDGs(持続可能な開発目標)との関連性も踏まえながら重点課題を設定しています。各重点課題にはKPIを定め、日々の組織運営や事業活動と連動させながら、継続的に取り組みを推進しています。

廃棄物処理業界においても、脱炭素社会の構築は喫緊の課題となっています。近年、異常気象や水害などの自然災害が多発し、猛暑の常態化により、2025年からは企業における熱中症対策も義務化されました。こうした状況は、気候変動の進行を背景とするものであり、本質的な課題解決に向けて脱炭素への取り組みを一層進めていく必要があります。

これまで当社は、廃棄物処理業を担う者

の使命として、適正処理の徹底に加え、リサイクルの推進による埋立処理量の削減に取り組む、循環型社会の構築と社会インフラの維持に貢献してまいりました。今後はこれらに加え、より低炭素で持続可能な事業運営体制の構築にも注力していきます。

廃棄物処理業は、静脈産業として動脈産業を支える重要な役割を担っています。製品ライフサイクルの一端を担う事業者として、脱炭素社会の実現に貢献できるよう、KPIの見直しと再設定を行い、取り組みを強化して参ります。

社会の側面においては、安全衛生への取り組みを引き続き重視しています。作業場内の危険箇所の排除に加え、社員一人ひとりの体調管理や、「危険」と率直に言い合える関係性づくりも重要だと考えています。業務グループは5～6名の班体制で運営し、コミュニケーションの円滑化と、現場単位で迅速にPDCAサイクルを回せ

る体制づくりを今後も進めてまいります。

ガバナンスの面では、事業継続力強化計画の策定に着手しました。気候変動に伴う自然災害が増加する中、事前の備えを行うことは、自社の持続可能性を高めるだけでなく、ステークホルダーの期待や要請に応えていく上でも重要なテーマです。2025年度中の策定を目指し、取り組みの定着を図ってまいります。

安全と事業継続力強化は、いずれも当社の事業運営の基盤となる重要課題です。その基盤をより強靱なものとするために、日々の業務と組織運営の両面から取り組みを着実に推進して参ります。

2015年から本格的に取り組んできた当社のCSRは、2025年で10年を迎えました。今後もCSRを経営の中核に位置づけ、持続可能な企業と社会の実現に向けて歩みを進めてまいります。

# BUSINESS OUTLINE [ 事業内容 ]

Happy Action

食べられる分だけ  
購入して食品ロスを  
なくす!



管理Gr.リーダー  
柴田 かおり

ペットボトル削減の  
ために水筒を  
持参する!



管理Gr.  
室 秀則

## 収集・運搬事業



### 廃棄物の様々な種類・荷姿・量に対応する、各種車両を保有

産廃・特管産廃・一廃の収集・運搬なら私たちにお任せください。固形のものはもちろん、液体や泥状のものなど多種多様な品目・荷姿・量の廃棄物に対応できるよう、豊富な車種をご用意しています。北部九州・山口と広域エリアでの収集運搬に対応しております。

- 1 豊富な車種で多品目に対応
- 2 北部九州・山口と広域エリアに対応
- 3 産廃・特管産廃・一廃も運搬可能

### [ 許可内容 ]

産 廃	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラ	紙くず
	木くず	繊維くず	動植物性残渣	動物不要物	ゴムくず	金属くず	ガラスくず等
	鋳さい	がれき類	動物のふん尿	動物の死体	ばいじん	13号廃棄物	
特 管 産 廃	廃油	廃酸	廃アルカリ	感染性廃棄物	廃PCB等	PCB汚染物	PCB処理物
	廃石綿等	有害廃油	有害鋳さい	有害ばいじん	有害燃え殻	有害汚泥	有害廃酸
一 廃	有害廃アルカリ		廃水銀等及びその処理物				
	可燃物・不燃物・資源物等(A類)						

※下線：廃バッテリーの積替保管許可保有

### [ 保有車種・コンテナ ]

車 両	危険物ローリー車	大型特殊吸引車	特殊吸引車
	大型ダンプ車	小型ダンプ車	アームロール車
	ユニック車	大型キャブオーバー	キャブオーバー
	バックカー車	小型貨物車	合計19台
コンテナ	8 m <sup>3</sup> コンテナ	6 m <sup>3</sup> コンテナ	3 m <sup>3</sup> コンテナ 1.5 m <sup>3</sup> コンテナ



## 処分事業



### 幅広い業種から排出される廃棄物に多彩な中間処理で多品目を処分する

合計6種類の中間処理方法で許可を取得しており、多品目の廃棄物処分が可能です。また廃石膏ボードなど、複数の素材で構成されている処理が難しい廃棄物にも真正面から向き合い、手間を惜しまない前処理と専用設備を設置することで、できる限り資源としてリサイクルすることをポリシーとしています。少量の廃棄物でも受け入れを行っておりますので、まずは一度ご相談ください。

- 1 多彩な中間処理で多品目の処分可能
- 2 少量の廃棄物もお任せください
- 3 アルカリ蓄電池や塗料などの処理困難物も対応可

### 処分方法



#### 破碎

搬入された廃棄物のうち、廃プラスチック類や紙くず、木くず、金属くずやがれき類などを破碎し、一定の大きさに揃えていきます。



#### 破碎(廃石膏ボード)

石膏ボードを紙と石膏とに破碎分離し、リサイクル可能な状態にしています。解体材も新築端材も、どちらも対応可能です。



#### 圧縮

軟質系のプラスチックや破碎された可燃物をプレスし、圧縮します。圧縮した廃棄物はセメント工場等に出荷し、燃料としてリサイクルされます。



#### 中和

廃酸・廃アルカリは、中和槽に注入した後、pHに応じて酸またはアルカリを添加して中和を行います。冷却水として再利用するほか、焼却・乾燥処理を行います。



#### 焼却・乾燥

ロータリーキルン式の焼却炉で、汚泥・廃酸・廃アルカリを調質したものと廃油とを処理します。燃え殻は、性状に応じて一部リサイクルします。



#### 油水分離

廃油は固形物を除去した後に油水分離処理を行い、良質な油と残渣に分けます。引火性廃油も同様に処理し、油(液分)・残渣の双方を再生燃料原料としてリサイクルします。

# BUSINESS OUTLINE [ 事業内容 ]

## 船舶廃油処理・その他事業



海が近い北九州ならではの廃棄物や  
 その他環境に関する取り組みにも応えあらゆる側面から未来を守る

国土交通省から許可を受け、国内外の船舶廃油処理を行っています。また、工場内の薬品タンクや側溝清掃等の化学洗浄、自社の環境目標達成に向けた講習講師なども行っています。海に面して港があり、工業地域も多く、環境未来都市である北九州の地域の未来を考え、「環境」をキーワードにあらゆる側面からサポート致します。

- 1 国内外の船舶廃油の収集・運搬・処分が可能
- 2 外国船舶に必要な通関手続きにも対応
- 3 薬品タンクから側溝清掃まで目的に応じた化学洗浄も実施

### 船舶廃油処理

船舶において生じた廃油は、適正な計画と国土交通省令で定めた基準に適合した処理施設での処理が必要です。当社は国土交通省より許可を受け、国内外船舶の特殊吸引車による廃油の収集運搬と自社施設での処分を行っております。また、外国船舶の場合には必要な通関手続きも実施致します。



船舶廃油処理許可番号:九運海船 第72号

### 化学洗浄

工場内の薬品や油類などの各種タンク、敷地内の側溝や油水分離層の清掃など、施設メンテナンスに関する化学洗浄を行います。



- ・重油・灯油などのタンク清掃(消防検査対応)
- ・薬品タンク洗浄 ・油水分離槽の清掃
- ・暗渠・管渠の目詰まり

### その他

#### 環境アシスト

環境・廃棄物分野の目指すべきゴールに向けて、豊富な経験を持つ「環境アシスタント」がアシストします。



- |      |   |
|------|---|
| 内容例  | ・廃棄物関連法規・基礎知識<br>・電子マニフェスト ・ゴミの減量化 など         |
| 実績業種 | ・鉄鋼製造業 ・プラントエンジニアリング業<br>・ハウスメーカー ・精密機械製造業 など |

#### 太陽光発電

当社工場の屋根にて太陽光発電を実施しています。発電した電力は、再生可能エネルギーとして全量売電しています。



- |      |  |
|------|--|
| 発電仕様 | ・設置:2013年 ・出力:30.9 kWh<br>・推定発電電力:32,629 kWh/年 |
|------|--|

## HISTORY [ 沿革 ]

- 1971年 ○ 個人創業
- 1972年 ○ タンク塔槽化学洗浄事業開始
- 1978年 ○ 株式会社クリーンセンター 設立 資本金 4,000千円  
ロータリーキルン式焼却炉設置  
産業廃棄物処分業許可取得
- 1981年 ○ 燃料系リサイクル事業開始
- 1983年 ○ 廃プラスチック類処理設備設置
- 1988年 ○ 廃酸・廃アルカリ処理設備設置
- 1989年 ○ 環境関連資機材開発販売事業開始
- 1992年 ○ 産業廃棄物収集運搬業許可取得  
大型破碎設備設置 / 資本金 10,000千円に増資  
特別管理産業廃棄物収集運搬業・処分業許可取得
- 1993年 ○ 厚生労働省より「厚生省生活衛生局長感謝状」を受賞
- 1996年 ○ 破碎設備(移動式)設置  
(社)全国産業廃棄物連合会より「地方優良事業所表彰」を受賞  
一般貨物自動車運送事業許可取得 事業開始
- 1998年 ○ (社)全国産業廃棄物連合会より「功労者表彰」を受賞  
「福岡県知事表彰」を受賞
- 1999年 ○ 廃プラスチック類 リサイクル原料事業開始
- 2000年 ○ 北九州市より「平成11年度産業廃棄物処分業優良業者」を受賞
- 2002年 ○ 廃石膏ボードリサイクル設備設置
- 2003年 ○ 船舶廃油処理事業許可取得
- 2004年 ○ 環境省より「環境大臣地域環境保全功労者表彰」を受賞
- 2005年 ○ 北九州市より「平成16年度産業廃棄物処分業優良業者」を受賞 継続表彰  
圧縮設備設置
- 2006年 ○ 油水分離設備設置  
ISO14001:2004 (JISQ14001:2004) 認証取得  
優良性評価制度基準適合(北九州市・特管収運) 福岡県内第1号  
チャイルドスポンサーシップに参加(現在も継続中)
- 2007年 ○ 優良性評価制度基準適合(北九州市・中間処理/福岡市・特管収運/北九州市・収運)  
北九州市処分業者第1号
- 2009年 ○ (社)全国産業廃棄物連合会より「優良事業所表彰」を受賞  
ISO14001:2004 (JISQ14001:2004) 更新 認証取得  
産学官連携「ふくおか石膏ボードリサイクル研究会」設立  
木くず破碎設備追加設置
- 2010年 ○ 北九州市より「平成21年度産業廃棄物処分業優良業者」を受賞 継続表彰  
第1回こども茶会開催
- 2013年 ○ 太陽光発電事業開始
- 2014年 ○ (公社)全国産業廃棄物連合会より「功労者表彰」を受賞
- 2015年 ○ 「北九州市認定産業廃棄物処理業者」認定取得
- 2016年 ○ 圧縮設備更新
- 2018年 ○ ISO14001:2015 (JISQ14001:2015) 更新 認証取得  
環境配慮型重機導入
- 2019年 ○ 大型吸引車増車 船舶廃油処理事業拡大  
トラックスケール設置 / コーポレートロゴ刷新
- 2020年 ○ 石膏ボードリサイクル設備更新  
「北九州市認定産業廃棄物処理業者」認定取得(新基準適用初認定)
- 2021年 ○ 「北九州SDGs登録制度」第一次登録
- 2023年 ○ 「福岡県SDGs登録制度」第一次登録
- 2025年 ○ 産業廃棄物収集運搬業・特別管理産業廃棄物収集運搬業(積替保管)許可取得  
廃油(特別管理産業廃棄物)処理設備設置  
北九州市脱炭素電力認定制度-脱炭素先進企業- 認定取得

Happy Action

ムダな購入をしない!  
 使えるものはリユース!



管理Gr.  
林 智司

使い終わった  
 サラダ油は回収BOX  
 に出して再利用!



管理Gr.  
荒木 美樹

# CSR POLICY [ CSR方針 ]

## 社是 社会への貢献 地域との調和

創業当初から掲げる社是「社会への貢献」と「地域との調和」は、現代的に捉えと、地域課題を解決しサステナブルな社会を実現していくことを意味します。

当社はこの社是を軸に、未来を見据えたVisionとCSRを戦略的に推進することで、社会課題解決と新たな価値の創造を目指します。

## VISION 廃棄物処理のコンビニへ



社会インフラの一つとして定着したコンビニは、必要なものを必要なときに受け取れる存在として、私たちの生活を支えています。同じように、私たちの生業である廃棄物処理も、排出される多様な廃棄物が当たり前回収され、適正に処理されていく、重要な社会インフラです。

そして、このインフラを維持・発展させるためには、単に廃棄物を処理するだけでなく、資源として循環させる仕組みづくりが求められています。その実現には、お客様、地域行政、そして同じ業界の仲間とのパートナーシップが不可欠であり、業界全体で発展し、循環型社会を実現していく取り組みこそが、新たなインフラ価値の創造につながります。

私たちクリーンセンターは、強みである少量・多品目の廃棄物の適正処理とリサイクルの実践を通じて、地域に欠かせない「廃棄物のコンビニ」を目指します。そして、廃棄物処理の観点からレジリエントで持続可能なまちづくりを支え、地域の真の豊かさにつながる社会の実現に貢献していきます。

Happy Action

コンビニでレジ袋は買わない!



業務Gr.リーダー 宮城 和司

買い物に行く時はエコバッグ持参!

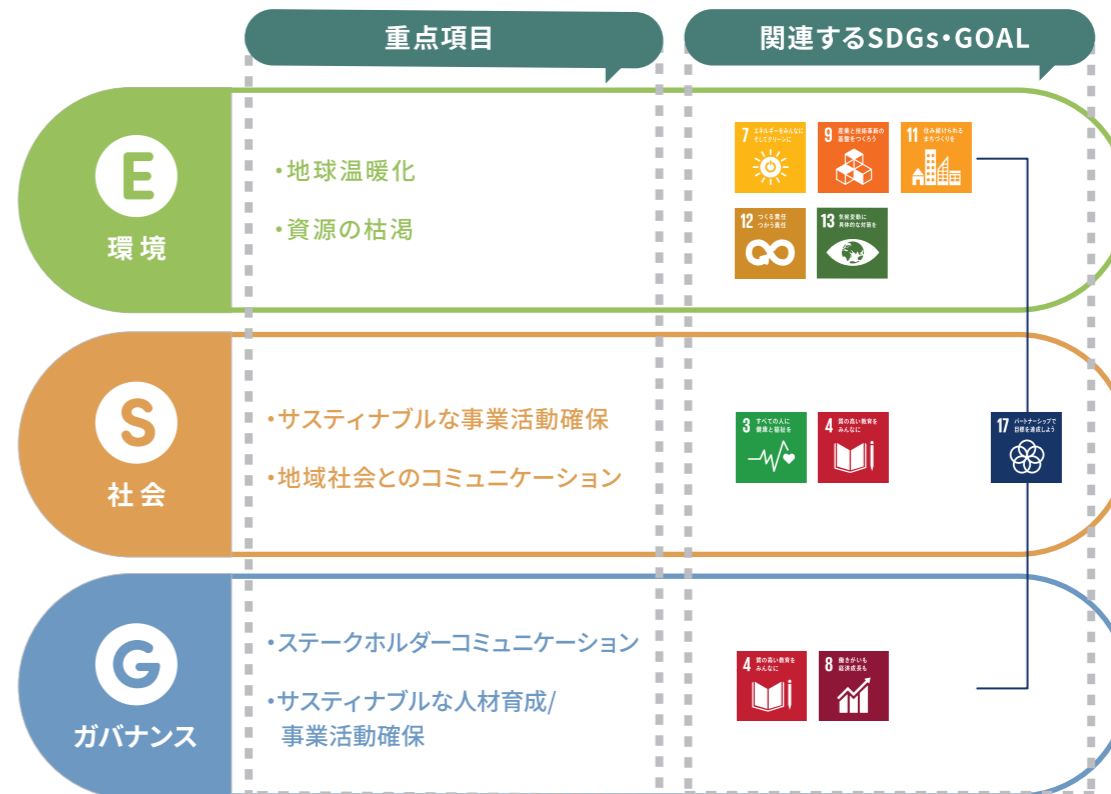


業務Gr.リーダー 芳村 大輔

## CSR

持続可能な社会の実現には、持続可能な企業になることが重要です。

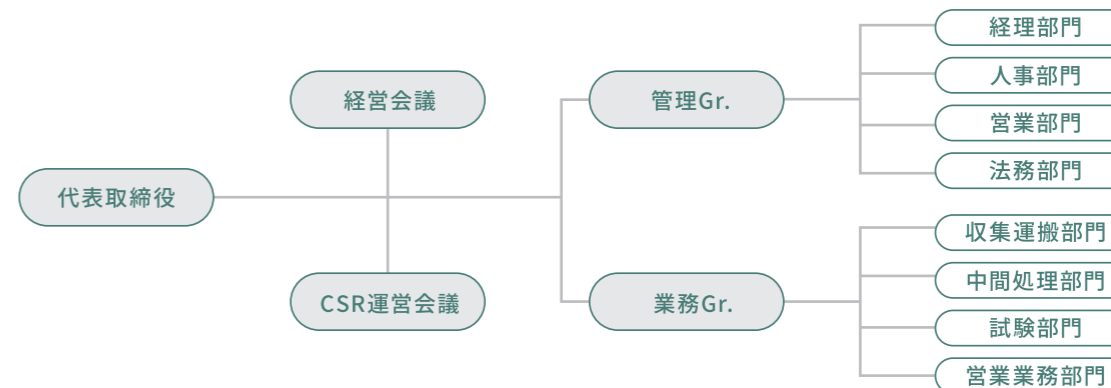
当社を取り巻く環境やステークホルダーの声を分析し、ESGの側面で重点項目を掲げCSRを推進していきます。また、SDGsのGOALとも関連づけ、社会課題解決を目指していきます。



## ステークホルダー

- お客様
- 社員
- 社員ご家族
- 協力会社
- 地域
- 行政

## ガバナンス体系



Happy Action

# CSR KPI [ CSR 重要業績評価指標 ]

2024年度

[評価方法]◎:目標達成率120%以上 ○:目標達成 △:取組実施・目標未達 ×:取組未実施

重点項目	KPI	関連するSDGs・GOAL	取組内容	2024年度							
				目標	結果	評価					
E 環境	年間CO <sub>2</sub> 排出量	7, 12	① 車両運転時のエコドライブ実施	年間収集運搬量当たり 収集運搬事業CO <sub>2</sub> 排出量 2022年比 2%削減	1.3%削減	△					
			② 処理作業の効率化	年間処分量当たり 処分事業CO <sub>2</sub> 排出量 2022年比 2%削減	0.5%削減	△					
			③ 電力使用量の削減								
	平成27年度基準 低燃費車導入率	7, 12	① 車両更新時に検討・導入	55%	52.6%	△					
				② 車両購入がない場合は現状維持							
	平成17年度基準 低排ガス車導入率	3, 11, 12	① 車両更新時に検討・導入	65%	84.2%	◎					
② 車両購入がない場合は現状維持											
グリーン購入法 適合製品比率	12	① 適合文房具類の使用 ② 適合制服・作業服の使用	80%以上	76.9%	△						
			電子マニフェスト 新規取引先件数	9, 11, 12, 17	① 取引先への勧奨	5件	5件	○			
② 取引先での講習会実施											
③ 電子マニフェストインストラクタ活動継続											
リサイクル率	9, 11, 12	① 処理工程・処理作業の見直し ② 各種手順書の見直し	リサイクル率 2021年比 2%向上	4.3%向上	◎						
			廃油の リサイクル率	9, 12	① 選別精度の見直し ② 手順書の見直し	前年比 1%向上	21.8%向上	◎			
S 社会	年間 地域活動 実施回数	4, 17				① こどもお茶会の開催	10回以上	14回	◎		
			② 地域清掃活動の実施								
			③ その他地域活動の実施								
労働災害 発生件数	3	① 労働安全衛生教育の実施 ② 安全・環境パトロールの実施 ③ ヒヤリハット報告書の活用 ④ ドライブレコーダーの活用	0件	0件	○						
			優良評価制度 による 情報公開	17	① 確実な情報公開実施 ② 複数担当者によるチェック ③ チェックリストによる管理	情報更新 100%	100%	○			
						検定合格者数	4, 8	① 北九州市環境首都検定の受検 ② サステナ経営検定試験の受験 ③ 外部研修会への参加奨励など	環境首都検定: 18名	環境首都検定: 18名	△
									サステナ経営検定: 7名	サステナ経営検定: 5名	
事業継続力 計画策定	8	① 事業継続力計画策定 ② 事業継続力計画の社内周知・勉強会	計画策定	策定中	△						

目的地が  
近い時は  
徒歩か自転車!



業務Gr.リーダー  
山田 哲也

電気のスイッチは  
こまめに切って  
節電!



業務Gr.  
赤金 靖彦

2025年度～

重点項目	重要課題	KPI	関連するSDGs・GOAL	関連するSDGs・ターゲット	取組内容	2025年度 目標	2026年度 目標	2027年度 目標		
E 環境	地球温暖化	収集運搬量 1t 当たり CO <sub>2</sub> 排出量	7, 12, 13	7.2, 7.3, 12.2, 13.3	① 車両運転時のエコドライブ実施	2022年比 1%削減	2022年比 2%削減	2022年比 3%削減		
					② 運搬効率を考慮した配車管理					
		年間 CO <sub>2</sub> 排出量※1	7, 12, 13	① 処理施設効率化、処理方法の変更 ② CO <sub>2</sub> フリー電源への変更検討 ③ 中小企業版SBTの取得	2023年比 4.2%削減	2023年比 8.4%削減	2023年比 12.6%削減			
	平成27年度基準 低燃費車導入率				7, 12	① 車両更新時に検討・導入 ② 車両購入がない場合は現状維持	63%以上	66%以上	70%以上	
		グリーン購入法 適合製品比率	12	① 適合文房具類の使用 ② 適合制服・作業服の使用			82%	84%	85%	
	資源の枯渇				リサイクル率※2	9, 11, 12	9.4, 11.6, 12.5	① 処理工程・処理作業の見直し ② 各種手順書の見直し	2022年比 1%向上	2022年比 3%向上
廃油の リサイクル率		9, 12	① 選別精度の見直し ② 手順書の見直し	2023年比 1%向上					2023年比 2%向上	2023年比 3%向上
				地域社会との コミュニケーション					年間地域活動 実施回数	4, 17
S 社会	サステナブルな 事業活動確保	3	3.6, 3.9		① 業務Gr.各班による労働安全衛生教育の実施 ② 安全・環境パトロールの実施 ③ ヒヤリハット・危険予知報告書の活用 ④ ドライブレコーダーの活用	0件	0件	0件		
				熱中症対策 強化		3	3.d	① 熱中症発生対策マニュアル作成と周知徹底 ② 各種熱中症対策の実施	マニュアルの 作成	対策継続
ステークホルダーとの コミュニケーション	優良評価制度 による 情報公開	17	17.16, 17.17		① 確実な情報公開実施 ② 複数担当者によるチェック ③ チェックリストによる更新管理				情報更新 100%	情報更新 100%
				CSR報告書 による 情報発信		17	17.16, 17.17	① CSRマネジメントの実施 ② CSR報告書の作成・公開	CSR 報告書発行	CSR 報告書発行
S 社会	サステナブルな 人材育成	4, 8	4.4, 4.7 8.5		① 北九州市環境首都検定の受検 ② サステナ経営検定の受験 ③ 外部研修会への参加、資格取得奨励				環境首都 検定:全員	環境首都 検定:全員
				サステナ 経営検定: 5名		サステナ 経営検定: 10名	サステナ 経営検定: 15名			
G ガバナンス	サステナブルな 事業活動確保	8	8.5	① 事業継続力強化計画策定 ② 事業継続力強化計画の社内周知・勉強会	計画策定・ 認定取得	計画取組 実施	計画取組 実施			

※1:年間CO<sub>2</sub>排出量=Scorp1(処理施設における燃料燃焼、車両の燃料使用等)+Scorp2(電気の調達) ※2:リサイクル率=サーマルリサイクル量+マテリアルリサイクル量/総排出量

Happy Action

マイハンカチでペーパータオルを節約!



業務Gr. 蝶野 忠幸

あたたかい服装をして暖房をなるべく使わない!



業務Gr. 杉本 圭一



# E 環境の取り組み

廃棄物処理を中心とした事業展開を行う当社にとって、環境は最重要課題です。適正処理を前提に、時代にあった資源循環と環境影響の低減を両立し、持続可能な環境づくりに貢献します。

## 01 ISO14001による環境マネジメントの実施

2006年からISO14001に基づく環境マネジメントを実施しています。社会の変化と事業活動における環境影響を捉えて設定した環境方針に基づき、環境目標(KPIの「E・環境」と同様)を立てて日々活動を行い、定期的なチェックと改善を行っています。長年取り組むことにより、経営と一体となった当社ならではの環境マネジメントを確立しています。

### 環境方針

#### 基本理念

株式会社クリーンセンターは、産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬・処理、一般廃棄物収集運搬、船舶廃油処理、一般貨物運送事業の各業務を通じ、社会への貢献と『地域との調和』を实践するため、事業活動を展開しています。環境未来都市北九州で廃棄物を取り扱う企業として、地球環境と当社事業活動との深い関わりを認識し、豊かな自然との共存と、地域社会との調和を目指し、北九州市が環境基本計画に掲げる基本理念と三つの柱「共に生き、共に創る」、「環境で経済を拓く」、「都市の持続可能性を高める」の政策目標達成に寄与するとともに、環境マネジメント活動を推進することが経営の最重要課題の一つと位置づけ、以下の「活動指針」を定めます。

#### 活動指針

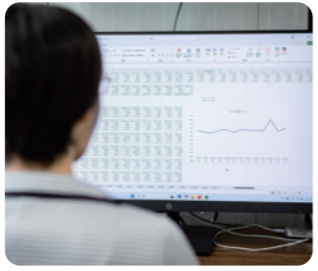
- 1 当社に関わる法規制及び当社が受け入れを決めたその他要求事項を順守します。
- 2 当社の事業活動が環境に与える影響を認識して、環境マネジメントシステムを推進し、継続的な改善を実施します。
- 3 事業活動を通じて汚染の防止に努め、技術的・経済的に可能な限り3Rを推進し、最終処分量を削減、環境負荷の低減に努めます。
- 4 技術的・経済的に可能な範囲で事業活動の省エネルギー化を推進し、低炭素化社会の構築へ寄与します。
- 5 労働災害防止に積極的に取り組み、地域環境保全の担い手である社員を守ります。
- 6 北九州市SDGs登録制度の活動方針に則り道路サポーターとして周辺道路の美化に努めます。
- 7 社員一人一人の環境意識・社会意識の向上のため機会を設け、あらゆる場面で社員全員がSDGs達成を意識できるよう努めます。

2024年2月2日 株式会社クリーンセンター 代表取締役 / 酒田 雅央

## 02 CO<sub>2</sub>排出量削減に向けて

### 収集運搬事業での活動

アイドリングストップをはじめとしたエコドライブを徹底し、デジタコによる運転評価や車両別の燃費管理を実施しています。日々の運行における取り組みを着実に積み重ねることで、CO<sub>2</sub>排出量の削減に努めています。



### 処分事業での活動

電気式フォークリフトの活用や分別の徹底により、処分工程の改善を進めています。猛暑による空調稼働時間の増加などにより電気使用量は増加しましたが、安全衛生を優先しながら、削減できる部分と必要なエネルギー利用の最適なバランスを図っていきます。



## 03 リサイクルに向けて



### 分別の徹底

複数の素材が組み合わさった廃棄物も多く受け入れる中、スタッフが手作業で丁寧に分別を行っています。地道な工程を積み重ねることで単一素材へ分別し、リサイクル率の向上につなげています。



### 処理フローの見直し

新たな廃棄物の発生に対応するため、素材や特性を理解した上での分別・中間処理を自社内で実施しています。あわせて、中間処理後の廃棄物は協力会社と連携し、リサイクルにつながる処理フローの拡充を進めています。

## 04 電子 manifests の普及促進

当社代表が電子 manifests 普及に向けた講習講師を務めています。排出事業者や処理業者に対し、導入に向けての一助となるよう、システムの概要や操作説明を行っています。電子 manifests の活用は、適正処理と廃棄物管理業務の効率化にもつながります。今後も業界の発展を支える取り組みとして、活動を継続してまいります。





# S 社会の取り組み

会社、地域、世界。わたしたちは広く社会の一員として活動しています。安全で安心して暮らすことができる社会をステークホルダーと共に構築していきます。

ふんわりアクセスでeスタート!



業務Gr. 仮水 栄二

買い物の際は必ずエコバッグを持っていく!



業務Gr. 松本 純一

運転で急発進・急加速はしない!



業務Gr. 石田 達典

## 01 職場における熱中症対策を強化

昨今の猛暑に加え、2025年6月施行の改正労働安全衛生規則を受け、職場における熱中症対策を強化しました。業務Gr.の各班における管理体制を強化し、朝礼や休憩時のメンバーの体調確認とこまめな休憩時間の確保を行うようにしました。少数の班単位で管理していくことで、細かな変化にも気づき迅速に対処できるようにしています。当社は屋外での作業も多く、今後も熱中症を含めた安全対策に力を入れていきます。



場内に設置しているミスト扇風機



麦わらバイザー装着



熱中症ポスター・数値管理

### 実施している熱中症対策

- 1 スポーツ飲料、塩飴の支給
- 2 空調服、麦わらバイザーの支給
- 3 夏用作業服の見直し
- 4 ミスト扇風機設置
- 5 熱中症ポスター掲示
- 6 班制度によるスタッフ体調確認
- 7 休憩回数・時間の調整

## 02 ヒヤリ・ハットを集約した交通安全ハザードマップ作成

業務中に事故が起きそうでヒヤッとしたことやハットした事例をまとめた「ヒヤリハット活動」を長年行っております。社員から上がってきたヒヤリハット報告書は、業務Gr.の班ミーティングで事例を取り上げ、みんなで改善策を考えることで安全意識・対策の向上を目指しています。その中でも、車両運行関連の危険箇所を「ハザードマップ」として取りまとめました。収集運搬現場だけでなく通勤に使用する道路についても範囲に入れることで、社員全員で交通安全についてのナレッジを共有していきます。



## 03 地域活動の実施・参画



長年継続している地域清掃活動は、2021年から『北九州市道路サポーター制度』に登録し、道路サポーターとして清掃活動に取り組んでいます。歩道のごみ拾いや雑草の除去などをスタッフ全員で行い、道路環境の美化と維持管理に貢献しています。また、近隣学校で開催されるバザーイベントでは、発生したごみの回収を行い、地域行事の後片付けの一助となるよう協力しています。日々利用している道路、そして事業活動の拠点である北九州市への感謝の気持ちを込めて、今後も地域に根ざした活動を続けてまいります。

## 04 世界の子どもを支援する「チャイルドスポンサーシップ」に参加

当社では視野を世界にも広げ、国際支援にも継続して取り組んでいます。2006年より、ワールド・ビジョン・ジャパンが実施する『チャイルドスポンサーシップ』に参加し、売上の一部を支援金として寄付しています。本プログラムは、特定の子どもへの支援を起点に、その子が暮らす地域全体の環境改善へとつながっていく仕組みを特徴としています。当社では2019年から、ケニアで暮らす女の子を支援し、毎年誕生日にはメッセージを送り、成長の歩みを見守ってきました。定期的な届く報告からは、学校の建設や安全な水へのアクセスなど、支援が地域に着実な変化をもたらしている様子が伝わります。身近な地域から世界へと、課題の規模は異なっても「暮らしを支える」という想いは同じです。今後も事業を通じて、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



World Vision

アイドリングストップでエコ運転!



業務Gr. 天本 一郎

まとめ買い・冷凍保存でフードロス防止!



業務Gr. 竹中 敏智

電気を使わない時はこまめにスイッチOFF!



業務Gr. 西田 敬



# ガバナンスの取り組み

持続可能な社会をつかっていくためには、まず持続可能な組織になることが必要不可欠です。社会のニーズに応え働きがいと経済成長を創造していく、笑顔あふれる組織を目指します。

## 01 事務所一部リニューアルで職場環境整備

社員がより安心して働きやすい職場環境づくりを進めるために、事務所の一部をリニューアルしました。執務スペースは壁紙でアクセントをつけてより明るい空間へと刷新。トイレ・シャワー室もリニューアルし、トイレは搬入にきたドライバー様にもご利用いただけるようにしました。また、新たに女性更衣室を設置し、多様な社員が快適に過ごせる職場環境を整えています。



2F事務所

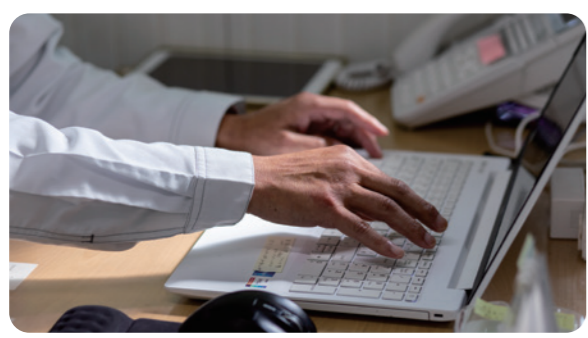


シャワールーム・更衣室



搬入にきた方もご利用いただけるトイレ

## 02 事務部門DX化の推進



事務部門においては、Microsoft 365を導入し、ファイルサーバーのクラウド化を進めました。これにより、PCやスマートフォンからのデータアクセスが可能となり、場所を問わない迅速な情報共有と更新を通じて業務対応の効率化を図っています。また、これまで紙で管理していた受注表をデジタル化し、入力・確認作業の省力化やヒューマンエラーの低減にもつなげています。業務プロセスを見直すことで、事務作業の標準化や属人化の防止にも取り組んでいます。今後も業務改善を継続し、働きやすい環境づくりと生産性向上を進めてまいります。

## 03 サステナビリティ研修会の実施・参加

全社員を対象に、CSRレポートの内容を共有しながら、ISO14001の取り組みやSDGs登録制度への登録内容など、自社のサステナビリティに関する活動を改めて学ぶ勉強会を開催しました。日々の業務と環境・社会とのつながりを理解することで、一人ひとりが自らの役割を考える機会としています。また、スタッフは「サステナ勉強会」(主催:株式会社Green prop)に定期的に参加し、同じ廃棄物業界のメンバーと意見交換を行っています。業界動向や他社事例等を学び、自社でどのような取り組みができるかを考え、日常業務や改善活動につなげています。



## 04 北九州市環境首都検定・サステナブル経営/CSR検定の受験

環境・サステナビリティに携わる企業として、知識の習得と意識向上を目的に、資格取得に長年取り組んでいます。まずは北九州市環境首都検定の全員合格を目指し、合格者は次のステップとしてサステナブル経営/CSR検定(サステナ経営検定)へ挑戦しています。これまではサステナ経営検定3級を目標としていましたが、より多くのスタッフがまず「知ること」から取り組めるよう、4級試験にチャレンジする制度へと見直しました。こうした取り組みを通じて、一人ひとりが社会課題への関心を高め、日々の業務の意義を再認識しながら、持続可能な事業活動につなげています。

**STEP1 北九州市環境首都検定**

北九州市の環境施策や公害克服の歴史、循環型社会づくりなどについて学び、環境に関する基礎的な理解を深めることを目的とした検定。  
[主催]北九州市

**STEP2 サステナブル経営/CSR検定**

SDGsやESGの考え方を踏まえ、企業活動におけるサステナビリティやCSRの基礎知識を体系的に学ぶことを目的とした検定。  
[主催](株)オルタナ、(一社)サステナ経営協会

# ENVIRONMENT DATA [ 環境データ ]

## ■ 排ガス試料測定結果

[ 試料採取日 ] 2024年10月23日

試料名	単位	測定結果	基準値
ダイオキシン類	ng-TEQ/m <sup>3</sup> N	0.0064	10
硫黄酸化物	m <sup>3</sup> N/h	0.0028>	0.46
ばいじん	g/m <sup>3</sup> N	0.0086>	0.25
塩化水素	mg/m <sup>3</sup>	10>	700
窒素酸化物	ppm	17	300

## ■ 焼却灰・飛灰計測結果

[ 試料採取日 ] 2024年10月23日

単位：ng-TEQ/g-dry

分析項目	測定結果	
	焼却灰	飛灰
Total (PCDDs+PCDFs)	0.0031	0.059
Total DL-PCBs	0.00059	0.0021
Total ダイオキシン類 (PCDDs+PCDFs+DL-PCBs)	0.0037	0.061
基準値	3 以下	3 以下

# MATERIAL BALANCE [ マテリアルバランス ]



※1: エネルギー等及び焼却処理起源のCO<sub>2</sub>排出量を対象とし、温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度(H21年度実績以降の排出量算定用)及びグリーンバリューチェーンプラットフォーム|サブライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等算定のための排出原単位データベースver.3.5(2025年3月リリース)にて公表されている排出係数で算定 ※2: 太陽光発電量は売電量を集計 ※3: リサイクル率=サーマルリサイクル量+マテリアルリサイクル量/総排出量

部屋の照明はこまめに電気を消す!



業務Gr. 江口 太祐

必要な分だけ買って食品ロス削減!



業務Gr. 玉井 敏行

水道は出しっぱなしにしない!



業務Gr. 波多野 太輔